【農林水産研究指導センター　研究Now】vol.105　　令和2年10月30日発表

スギさし木苗増産に向けたミニ穂の活用

【研究のポイント】

【ミニ穂とは？】　スギの苗木生産では、40cm程度の大きな穂木（以下、普通穂）を春にさし付けて育苗するのが一般的ですが、普通穂は1つの台木から採ることのできる本数が限られています。そこで、採穂の際に普段は取り残されている25cm以下の小さな穂木（以下、ミニ穂）を活用することで、採穂数を増加させ、さし木苗を増産できないかと考えました。

【ミニ穂を使った育苗方法】　ミニ穂はサイズが小さい分、出荷規格のサイズに到達させるまでに普通穂よりも時間がかかります。そこで、発根後の成長期間を確保するため、普通穂で行う春のさし付けではなく、秋頃にさし付けを行うことで、さし付けの翌年までに出荷規格に到達させる方法を検討しました。

ミニ穂のさし付け

【研究の成果】

ミニ穂の育苗試験

2018年8月下旬、9月上旬、10月上旬にスギの25cm穂をさし付け、翌年2月と5月に発根状態を確認した結果、**8月下旬と9月上旬さし付け分の8割以上が良好な状態**でした。
その後、発根苗をコンテナと苗畑に移植し、11月頃まで育苗した結果、**約8割が県の苗木の出荷規格に到達**していました。

育苗後のコンテナ苗

**⇒秋の早い時期までにさし付けることで
ミニ穂でもさし付けの翌年に出荷が可能**

試験結果に基づくミニ穂の育苗スケジュール（コンテナ苗の例）

（参考）試験時の気温	平均	最高
8月下旬～9月上旬	26℃	38℃
10月上旬	20℃	30℃

（灌水）2月～梅雨　1回/日
夏期　10分×3回（朝昼晩）/日

コンテナ鉢上げ作業
培地に緩効性肥料を混合（NPK=13:9:11　180日タイプを2g/苗）

試験協力：大分県樹苗生産農業協同組合

【生産者の声】

有限会社キヨタキナーセリー
代表取締役　清瀧　毅　氏

春は業務が集中する時期なので、労務の分散という面でも秋のさし木は必要な技術です。
苗木生産は生産者の経験に頼ることも多いですが、今回の試験で秋のさし付けの適期が分かり、今後の生産スケジュールの参考になりました。

【連絡先】

担当：　林業研究部　森林チーム
TEL　：　0973-23-2146（問い合わせは企画指導担当へ）
住所：　日田市大字有田字佐寺原35